

尾熊治郎先生 退職記念号の発刊に寄せて

通信教育部長 花見 常幸

1971年（昭和46年）の本学開学、そして76年（昭和51年）の通信教育部開設以来、本学と通信教育部の建設と発展のために、教育と研究の両面において、多大な貢献をされてこられた尾熊治郎先生が、本年3月をもって、定年退職を迎えられた。長年にわたる尾熊先生のご功績は大きく、そのご恩に少しでも報いるために、通信教育部学会は、退職記念号を発刊する運びとなった。これは、通信教育部学会のみならず通信教育部としても、大いなる喜びとするところである。

尾熊治郎先生は、1944年7月に広島県にお生まれになり、1967年に中央大学法学部を卒業後、同大学大学院文学研究科哲学専攻修士課程に入学され、西洋哲学を学ばれる。この大学院時代に、西洋哲学とくにニヒリズム研究の大家である斎藤信治先生に師事し、ニーチェとハイデッカーの研究を開始され、以来、今日までニーチェとハイデッカーの宗教に関わる部分の研究を続けられている。

大学院在学中である1971年、本学創立者池田大作先生が示された「人間教育の最高学府たれ」との建学の精神に深く賛同された尾熊先生は、開学した本学の文学部助手として赴任され、開学当初の草創期の大学建設に、とくに学生部員として学生の育成に尽力された。個人的なことで誠に恐縮であるが、私自身も本学の1期入学卒業生として尾熊先生にお世話になった学生の一人であり、大学院受験を控えた3ヶ月間ほど、図書室が午後9時に閉館になった後に、先生の研究室の一角をお借りして勉強させていただいたことがあった。大変懐かしい思い出であり、学生思いの先生のお人柄を示すエピソードとして、紹介させていただいた。

1976年の通信教育部の開設と同時に通信教育部に移られ、インストラクターとして草創期の通信教育部の基礎作りのために力を尽くされる。1981年に通信教育部専任講師、2008年には教授に就任され、本年まで通信教育部において39年間教鞭をとられてきた。通信教育課程では、教養教育分野の中心者として、「哲学」、「自学習入門」、「共通総合演習」などの科目を担当されるとともに、通学課程でも、「哲学」、「宗教学」などの科目担当を通して、本学の建学の理念を教養教育の中に具現化する努力を続けられてきた。また、1971年の開学以来現在まで、学生のクラブ団体である「生命哲学研究会」の顧問を続けられており、「学生のための大学」である本学の発展のために、課外活動の分野でも、尽力されている。

研究業績としては、『哲学』をはじめ、『人権は誰のものか』、『女性学へのプレリユード』などの著書があり、ニーチェおよびハイデガーに関する多くの学術論文も執筆されている。さらに、通信教育部では、2005年からの開設30周年の記念事業

として、創立者池田先生の思想を研究するプロジェクトを立ち上げ、その成果をわが国における創立者研究の第一歩として、『創立者池田大作先生の思想と哲学』という3巻からなる書籍として出版したが、尾熊教授がその研究プロジェクトにおいて、大きな貢献をされたことも忘れることはできない。

以上のような、尾熊先生の本学並びに通信教育部における教育および研究上の多大なご貢献に対して、通信教育部教員会は先生を本学名誉教授に推挙申し上げ、3月の第41回卒業式の席上、名誉教授称号の授与がなされた。先生はご退職されたのではあるが、先生が身をもって示して下さった「学生第一」の精神と行動は、不滅のものであり、後に続く通信教育部教員である私どもが鑑とすべきものである。

尾熊先生が、これまでも増して、益々ご壮健であられ、ご活躍されることを深くお祈り申し上げ、本記念号の献呈の辞としたい。

2015年10月2日